

所沢市医師会学術講演会

平成27年7月23日(木)19:15～(本講演は19:30～)

ベルヴィ ザ・グラン

座長 伊藤医院 院長 伊藤 哲 先生

講師 徳島大学大学院医歯薬学研究部・循環器内科学分野

教授 佐田 政隆 先生

「PCI後のイベント再発予防に向けた新規抗凝固薬の可能性
-最新のエビデンスと動脈硬化研究からの考察-

抄録

急性心筋梗塞の発症原因として、軽度な狭窄しかきたさない動脈硬化病変の破裂やびらん起因する急性血栓性閉塞が注目されている。破綻した病変では、脂質含量の増大、被膜の菲薄化、平滑筋細胞数の減少、凝固能の亢進、コラーゲン成分の減少、炎症細胞浸潤、タンパク分解酵素の発現亢進、マクロファージなどの炎症細胞浸潤、組織因子などの凝固因子の発現亢進、プラーク内血管新生と出血などが認められる。しかしプラーク脆弱化の機序、予防法などに関しては不明な点が多く、急性冠症候群の発症をバイオマーカーや画像診断で予知することは現在、非常に困難である。

私たちは、臨床材料ならびに動物モデルを用いて、動脈硬化の進展と破綻の機序を研究している。ヒトの動脈硬化は、かなり早期から始まり、各種生活習慣の悪化とともに急速に増悪し、突然イベントを誘発する。その病態においては、従来研究されてきた脂質沈着や細胞増殖だけでなく、血管周囲の Vasa Vasorum からの新生血管を介した細胞流入や微小出血が関与することがわかってきた。また、血管、特に冠動脈周囲には豊富に脂肪組織が存在し、血管の慢性炎症、動脈硬化に深く関与し、粥腫の進展と不安定化に重要な役割を担っていることも明らかにされてきた。

最近の研究によると、生活習慣病によって各種凝固因子が低強度に活性化され、血管壁ならびに脂肪組織で起こる慢性炎症に関与していることが示唆されている。本講演においては、新規抗凝固薬がステント血栓症を予防し、動脈硬化の進展と破綻を抑制する研究成果を紹介し、PCI 後のイベント再発抑制におけるその可能性を考察したい。

